

令和8年度 事業計画

(令和8年4月1日～令和9年3月31日)

近年、気候変動の深刻化、人口減少社会の本格化、都市構造の再編、公共投資の質的転換など、我が国の社会基盤を取り巻く環境は大きく変化している。こうした時代潮流の中で、ランドスケープ分野に求められる役割も大きく拡張している。

従来の景観形成や公園緑地関連事業にとどまらず、流域治水やグリーンインフラの推進、地域振興の高度化、地域共生社会の実現、公共空間における社会的公正(Equity)の確保、公民連携への専門的関与など、分野横断的かつ戦略的な専門性が不可欠となっている。

このような社会的要請を踏まえ、ランドスケープ・コンサルタントとしての公共的価値を再確認し、その価値を社会に対して明確に示していく必要がある。政策提言機能の強化を図るとともに、専門性と総合性の調和を図りながら、次世代人材の育成を推進する。あわせて、2027年国際園芸博覧会(「GREEN × EXPO 2027」)を重要な国際発信の機会と位置づけ、我が国のランドスケープの知見と実践を国内外に積極的に発信していく。

I 全体事業

1. 社会への訴求と発信

- ・会員の拡充を図る
- ・職能の魅力を発信し、職能プレゼンスの向上を図る
- ・環境を基盤としたランドスケープの強みを発揮し、社会に貢献する

2. 連携の強化

- ・関連団体や他分野の人材との連携を強化し、コンサルタントとしての先導的な役割を果たす
- ・本部と支部との関係を再構築し、支部活動をより一層拡大する

3. 質の向上

- ・事業活動を通して技術の研鑽を推進する
- ・技術の伝承と深化に向けて取組む

4. 実行力のある人材の積極的登用とそのバックアップ

- ・委員会活動などへの新しい人材の登用
- ・会員各社の世代交代、組織のリジェネレーション

5. GREEN × EXPO 2027 への積極的な参画

- ・CLA出展庭園の作成
- ・造園・環境緑化産業振興会を始めとする関連団体との協賛等の拡大

II 委員会等活動

1. 総務委員会

(1) GREEN × EXPO 2027 へ向けた社会的発信

2027 年国際園芸博覧会特別委員会と連携し、協会活動全体を GREEN × EXPO 2027 に向けた社会的発信へと展開していくためにも活動を広げ本格化する。

(2) 会務の見直し

支部と本部との新たな関係構築を中心に、社会への訴求と会員サービスの強化を図るため、会務ならびに体制等について再整理する。また、会員企業が抱える諸課題の解決に向けて、その支援のあり方について検討する。

(3) 関連団体等との連携

造園・環境緑化産業振興会を始めとする関連団体や包括協定を提携した団体との連携・協働を強化する。

2. 国際委員会

(1) 国際的な情報提供

GREEN × EXPO 2027 と連携した「国際シンポジウム」の企画と実施に向けた検討を進める。

(2) 国際的な情報発信

新興国とのネットワークの強化を図るための情報交換について検討を進める。

(3) 国際関連団体との連携強化

国際的イベントの開催へ向けて、国際関連団体との連携を強化する。

3. 業務委員会

(1) 発注機関への会員活用の働きかけ

報酬積算ガイドライン、会員名簿、C L A journal 等のさまざまなツールを用い、発注機関にランドスケープコンサルタント業務が専門である C L A 会員をアピールするとともに、業務受注が拡張されるような活動を行う。

(2) 「2026 年度版 ランドスケープコンサルタント業務における標準業務・報酬積算ガイドライン」の発行

本資料は、ランドスケープコンサルタント業務の積算について現在多くの発注機関に活用されており、認知度もあがってきている。公表されている技術者単価についても昨年に引き続き、掲載し発行する。

また、引き続き「都市公園安心・安全対策に関する調査・計画 ―公園施設長寿命化計画と公園再生計画― 標準業務仕様書・標準業務報酬積算ガイドライン」「緑の基本計画」等について、改善等の検討を行う。

さらに、C L A で進めている「公園植栽の創造的管理計画策定指針」に基づく仕様書及び歩掛案の作成を進める。

(3) C L A 白書(年次報告書)の作成

会員の現状を正確に把握し広報するため、会員から提出された経営状況や業務内容等のデータ整理を行い、「C L A 白書 2025 年度版」を発行する。なお、本年度も引き続き、外部へ発信できるような白書としての取りまとめを進める。(各支部の活動、取組み等)

(4) セミナーの開催

会員向けセミナーとして、情報セキュリティ、D X 等に関するセミナーを開催する。新人、若手等の人材育成のための研修及び育児・介護休業法の改正、若手、外国人、女性等の技術者確保育成等のセミナーの開催を検討する。

4. 技術委員会

(1) ビジョンセミナーの開催

協会の今後の活動に関わるテーマや社会的動向を踏まえた内容のセミナーを開催する。本年度は特に「GREEN × EXPO 2027 の動向やC L A としての出展内容等」をテーマとした内容を中心とする。

セミナーはWeb により、正会員・賛助会員等に広く配信してC P D 単位取得を支援する。

(2) 若手造園技術者交流会の開催

好評を博している交流会を都市再生機構、全国1 級造園施工管理技士の会等と連携して、若手を中心とする事業・設計・施工・管理などの多様な立場の技術者が交流しながら、公園やみどりの課題に対して提案を行うセミナーを開催する。

(3) 技術セミナーの開催

協会の活動を支援していただいている賛助会員を中心とした、災害対策や環境に配慮したまちづくり、公園・庭園における造園技術と管理運営などに関する各方面の多様な技術を会員などに広く伝えるセミナーを開催する。

(4) C L A 賞の運営と連携の推進

前年度の検討を踏まえてC L A 賞の事業を運営し、関連団体と連携して受賞作品の発表の場を設ける。C L A 賞の知名度を向上させるために、多くの会員及び学生、会員以外の参加を促進する発表会とWeb 配信を企画・実施するとともに、C L A 賞各部門の応募の増加と受賞者へのインセンティブとなるように、受賞作品をP R する方法を検討して働きかけを行う。

また、業務のやりがいやC L A への興味を誘発するために、若手技術者及び学生の部門を設けることについて検討する。

(5) 支部、他委員会、関連団体等との連携

関連団体と連携して、社会的課題に向けたみどりに関する技術的取組みを展開するとともに、他委員会、支部等と協力しながら研修・講習・意見交換会及び若手技術者が活躍する場などの企画・運営を行い、Web 配信や現地見学等を実施し

て、より多くの参加の働きかけと参加者の交流を図る。

なお、他委員会との連携に際しては、セミナー等の開催時期、内容についての情報共有、調整を図る。

5. R L A資格制度運営委員会

(1) R L A資格制度の適正かつ円滑なマネジメントの推進

R L A資格制度は、重要事項を審議する総合管理委員会をはじめ、試験問題の作成や試験の実施・解答の採点・合否判定等に関わる多くの委員会や分科会で構成されるため、制度のより適正かつ円滑なマネジメントの推進に向けて、適切に実施していく。

(2) R L A資格制度の普及と資格保有者の増大

R L A資格制度の普及や資格保有者の有効活用に向けて、行政機関・企業・大学での説明会やパンフレットの配布等のP R活動の展開を各支部と実施していく。さらに、大学への特別認定学科の周知を効果的に実施し、R L A補認定試験とあわせ、R L A補の増大を目指す。

全国の試験会場で受験できるC B T試験導入を機に、各都道府県における資格保有者の増大を目指し、各支部と情報交換をしながらR L A資格保有者が地方で活躍できる環境整備などR L Aの活用方法を検討する。

(3) 造園C P D制度の普及啓発

R L A資格の登録更新要件としている造園C P D制度について、新規登録者と更新登録者に向けた各セミナーを開催し、その普及を図るとともに、C P D取得サポートを検討する。

(4) 関連団体との連携

J L A U、日本造園学会など関連団体と連携を図り、R L A資格試験の受験対策セミナーの開催、R L A試験対策本の周知、大会への参加などR L A資格認定制度の普及を図る。

また、C B T試験の開始に伴い、一次試験の過去問題を公表していないことから、他団体と連携し問題集の制作、販売などを検討する。

(5) 国際相互承認への取組み

海外在勤者などが継続して資格保有できることや、海外からの受験者に対応できる制度の見直しを継続して検討していく。

本資格が、国際的技術水準に即した活躍を求めていることから、R L A資格の国際相互承認に向けた取組みを推進する。

6. 広報委員会

C L Aの周知・認知度の向上と、会員の業務拡大と業務創造への貢献、都市公園事業の進展への支援、GREEN × EXPO 2027におけるC L A出展の発信、ならびに会

員交流と支部との連携を目標に、以下の事業を進める。

- (1) 広報誌「C L A journal」No.187 の発行
企画特集として、以下の特集を検討する。
 - ① C L A 賞受賞作品
 - ② GREEN × EXPO 2027 における C L A の取組み
 - ③ その他
- (2) 第7回ランドスケープ・フォーラムの開催
「GREEN × EXPO 2027 における C L A の取組み」について、2027 年国際園芸博覧会特別委員会と協働して開催する。
- (3) 研修会・講習会の開催や、支部広報活動の支援
技術委員会等ならびに各支部と連携して、ランドスケープに関する最新情報の提供に努める。
- (4) その他
協会情報の発信をより拡大するよう検討する。

7. 2027 年国際園芸博覧会特別委員会

2027 年 3 月 19 日の開幕に向けて、主催者との調整を図りつつ C L A 出展庭園の設計並びに施工を行うと共に、ソフト（展示、運営、催事）の実施計画を策定し、展示パネルや会期中に開催するプログラムに必要な物の制作を行う。また、C L A 出展庭園への協力、協賛獲得に向けての活動や依頼を行っていく。

- (1) 特別委員会の開催並びに事業推進体制
令和 6 年度から開始した特別委員会を引き続き開催・運営すると共に、スムーズなプロジェクト進行のためのプロデューサー体制を組み、C L A 出展庭園事業を推進する。
- (2) C L A 出展庭園の設計並びに施工（ハード）
出展庭園の設計並びに材料調達、施工を行う。
- (3) C L A 出展庭園のソフトの実施計画並びに展示物の作成（ソフト）
出展庭園のソフトの実施計画を作り、展示やワークショップ等に使用するパネル等 2026 年度に作成しておく必要があるものの制作を行う。
- (4) C L A 出展庭園への協賛獲得に向けた活動
出展への協力・連携や協賛が期待できる企業、団体等への協力、協賛依頼を行う。
- (5) 造園・環境緑化産業振興会のプロジェクトへの協力、主催者展示との調整
造園・環境緑化産業振興会のプロジェクトへの計画、設計協力と、キッズヴィレッジとしての統一感を担保するため、主催者展示並びに 7 団体との調整を図る。「協会として GREEN × EXPO 2027 へ参加する」ことに向けた取組みを本格化し、その具体的活動を各支部、各委員会ならびに L B A へと展開していく。
また、関連団体との連携を進め、協働して進められるよう働きかけを行う。

8. ランドスケープ経営研究会（略称：L B A）

L B Aは3つの新生L B Aビジョンに基づき、様々な実践的活動を展開する。

- ① みどりが人や自然や社会をつなぐ仕組みを解き明かし活用します。
- ② 公園の枠を越え、まちを舞台とした活動を展開します。
- ③ 組織の枠を超え、個人を重視した実践活動を展開します。

（1）開発WG

開発WGでは、ランドスケープ経営を実社会の中で機能させ、「みどりの体感」を一過性の取組でなく、社会システムとして定着させることを目指します。下記は主な取組。

- ・街もりプランターの循環型メンテナンス体制の構築、
- ・門街涼風プロジェクトの継続実施、花博展示を見据えた体感型プロトタイプの実装
- ・関係者や市民を巻き込みながら、みどりを支え続ける仕組みづくり

（2）研究WG

研究WGでは、都市のウェルビーイング向上に資する緑の価値を明らかにし、社会実装につながる知見として整理・発信することを目的とする。

- ・「みどりの処方」や健康効果に関する検討
- ・緑地機能と自然エネルギー活用の研究
- ・TSUNAG、SITES、ESG、TNFD 等の枠組みについて検証

（3）交流WG

交流WGでは、L B A内外の交流を促進し、研究会全体の活力向上、活動の拡大と深化を図る。主な取組は以下の通り。

- ・L B Aサロン、見学・体験セミナー、その他の交流型イベントを企画・運営

（4）広報WG

広報WGでは、L B Aの活動と価値をわかりやすく伝え、認知と参加の拡大を図る。下記は具体的な取組。

- ・メールマガジンの改善と効果分析
- ・グリーン情報誌やホームページとの連動強化
- ・入会希望者向けの広報ツール整備や、新たな広報メディア戦略

（5）特命事項（T F 1：L B Aアワード）

前年度は試行的にアワード候補の4つについて現地取材を行った。いずれも大変興味深い内容で今年度も引き続き、アワード候補を訪ねる取材活動を継続する。

（6）特命事項（T F 2：2027 国際園芸博）

C L Aの出展にソフト面から協力する。それとは別に、「GREEN × EXPO 2027」の中でL B A の提案内容を活かせる機会を模索し、取組む。

Ⅲ 支部活動

(1) 北海道支部

業務の健全な発展を図りつつ、社会に貢献する環境づくりを行うとともに、事業領域の拡充と次世代事業の創造を図り、広報活動を展開し、関係機関ならびに関連団体との連携や支部連絡会議への参加を行う。特に本年度は GREEN × EXPO 2027 への支部協力の在り方を検討すると共に、HP の発展的活用を検討する。

(2) 東北支部

支部活動を活発に行い、支部会員相互の交流を深め、情報や技術を共有し、「事業領域の拡大」「持続的な社会への貢献」「技術力の向上」など、支部会員として活動することのメリットを肌で感じられる事業を展開する。

(3) 関東支部

本部との連携を図るとともに、当支部の特色と役割を探求し、その実現を図るために、関係団体等との連携構築を通じた支部活動の活性化に取組み、これにより当支部を取り巻く社会要請の情報収集、ならびに発注団体及び当支部会員への情報発信・情報提供を強化し、当支部会員及び支部賛助会員へのサービス向上に努めるものとする。特に本年度は、造園系学生の人材確保のための事業の実施と GREEN × EXPO 2027 への参画に注力する。

(4) 中部支部

公園・緑地に期待される役割の多様化に応えるため、事業領域の拡充と次世代事業の創造を図り、広報活動を展開し、関係機関ならびに関連団体との連携を進めるとともに会員の増強を図り、具体の事業活動を行う。特に本年度は、GREEN × EXPO 2027 に向けて、CLA の活動や緑の価値を伝える魅力ある展示の支援に努める。

(5) 関西支部

例年通り、大阪府ならびに公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会と共催する「みどりのまちづくり賞(大阪ランドスケープ賞)」の開催を後押しする。また、次世代の企画委員による技術セミナー等の開催を通してランドスケープの重要性を発信するとともに、広報誌「ランドスケープカンサイ」の発行等による広報活動、支部会員活用の要請等を行う。本年度は 2025 大阪・関西万博の現地見学も含めた関西支部の活動をレポートとして取りまとめる。

(6) 九州支部

九州緑化協議会ならびに日本造園学会九州支部を中心に、関連団体と連携・協働し、産官学と市民連携を含めた交流や活動の実践、運営支援を推進する。また、技術者や学生を対象とした技術研鑽・交流を目的とした「九州ランドスケープセミナー」の開催や、「みどり・まち・夢を語る会」の運営支援を引き続き行う。

【参考】

「造園・環境緑化産業振興会」

構成団体

一般社団法人日本造園建設業協会

一般社団法人日本造園組合連合会

一般社団法人日本植木協会

一般社団法人日本公園施設業協会

一般社団法人日本運動施設建設業協会

一般社団法人日本水景協会

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会